

「商店街を町の顔に！」

愛媛県立川之江高等学校 3年

森実 夏海

商店街を町の顔に!

1.はじめに

今回私は自分の生まれ育ったこの四国中央市をより豊かで住み良い町にあるため何かできないか考えたとき、「商店街」に注目しようと考えた。地方に住む私たちは商店街と聞くと癒されたイメージを持ちやすい。特に若者は買い物もしに行かない。私の住む町の商店街である「栄町商店街」はイベント時に多くの人が集まる。ところがイベントのない普段は人で見届ゆことではない。昨年この商店街が県から賞をいただいたと聞いた。確かにイベント時とすると人で見届ゆい、癒しをあまり感じさせないのも事実である。そこで私はなぜ普段人があまり訪れぬのか疑問に思い詳しく調べるところにした。そして普段イベント時のようにもう少し人通りを多くし、見届ゆいを持たせるための方法はなにか考え「商店街を町の顔に!」というテーマを設定した。

私の考える商店街の「町ガリビジョン」は以下のものがある。

- 地域の人だけでなく他県の人や付近の市や町の人にも来てもらえる商店街に

というものである。四国中央市の人口は8万9070人で、松山市に比べ42万6108人の差のある小規模な町で、松山市のように人を集客するのは難しいが、魅力的なものであることで集客できることがあるかもしれない。そのため私はまず、今の商店街の現状認識を可るため大きく分けて2つのことを行った。

- ① 「栄町商店街」のあのインタビュー
- ② 「栄町商店街」の店舗データと他の商店街の店舗データの比較 (→2.へ)

① インタビュー

実際に栄町商店街のイベント企画や整備を中心で行っている高原呉服店の店主である高原茂さんにインタビューさせていただき、商店街の歴史や活性化に向けての対策などについてお伺いした。

栄町商店街の歴史

- H6 •アーケード&カラー舗装、イベントの開始
- H16 •川之江、三島、土居、新宮の合併→四国中央市へ
•空き店舗を「ドットコム」という地域情報発信基地へ
- H19 •E=ビル開設 (ドットコム2F)
↳お子さんを連れて気軽に訪れられることができ、様々な相談やイベントを楽しめるスペースとなった。

イベント

- 紙まつり •商人祭り •朝市
- 食の回廊 •夏夜市

受賞してきた賞

- H21 「経済産業賞」 ... 全国1万2000~3000のうち
の77選の1つ
- H23 「NPO法人女性と子ども
の応援プロジェクト」 ... E=ビルが受賞。1位
- H28 「愛顔のあふれる商店街」 ... 愛媛県下で1位。

Q&A

Q1

商店街の活性化に向けて
して良かったことは何かありますか？

A1

町づくりをしていくうちに地域の方
とのコミュニティが広がったことだ。

高源興商店店主
高原 茂 さん

Q2

商店街の活性化に向けてして
困ったこと、大変だったことは何かありますか？

A2

「空き店舗減問題」だ。店主高齢
化に伴いせむなくお店を閉めたお
店と住居が一斉なため、セキリテ
等の問題で貸し出しの許可をいただ
けないことがある。

Q3

「町づくり」に向けてビジョンは
ありましたか？

A3

当初は全くなかった。ただ、この商店街
が廃れさせられたため、少しでも地域
の方が楽しめる、集まる場所にした
らうという。しかし現在は、
「人が住み、育ち、学び、働き、ぶ
らあろ町」というビジョンがあります。

人の賑わい
松山市
「花園通り商店街」



③ インタビューから気づいたこと → ビジョンに対する温度差

「町づくり」に向けてのビジョンをお尋ねした際、商店街の方々と私のビジョンに対する意見の温度差
を気づくことができた。温度差は 人が楽しめ、賑わい、集まる場所への“人”の対象から生まれて
いた。私の対象としている“人”は「地域の人だけでなく他県や付近の市や町の人」である。しかし
商店街側の対象としている“人”は「地域の人」である。他県や付近の市や町の人を対象としておら
ず、まあ「地域の人に来てもらいたい」と考えていた。

商店街に来てもらう対象をきちんと定めることが無理のない持続可能な活動につなげられる。
よってターゲットはまあ「地域の人」であることが分かった。

2. 比較とデータ

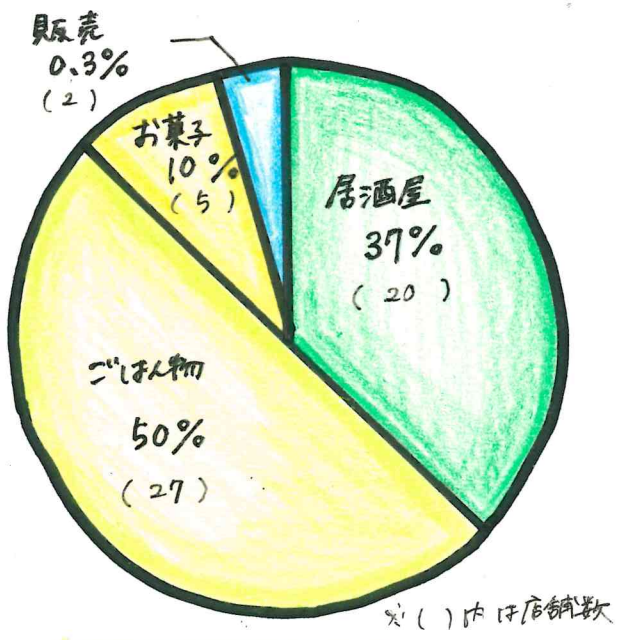
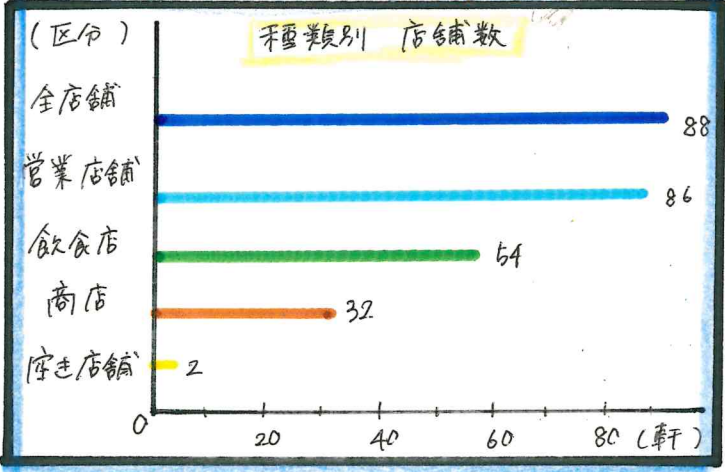


川江商店街
マーケット入口

今回、栄町商店街と比較するため松山市の「花園通り商店街」に調査に向かった。花園
通り商店街を選んだ理由は①マーケット(屋根のついた歩ける所)の距離がほとんど同じであること②その
市の主要な馬場から近いという点から比較対象に選んだ。「大街道」や「銀天街」、「道後の商店街」も
選ばなかった理由として、松山市が観光都市としており、地域外の人も多く訪れている商店街であり、
比較対象にならないと思ったからである。調査データのグラフを次のページに記載している。

松山市

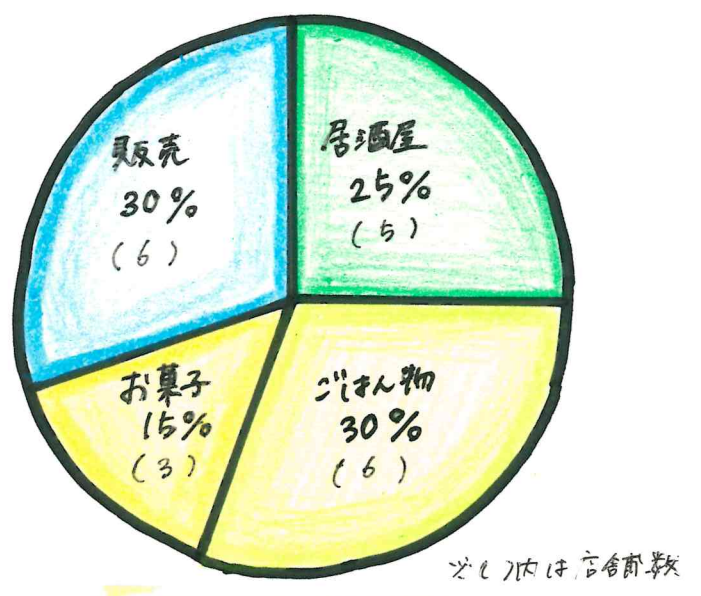
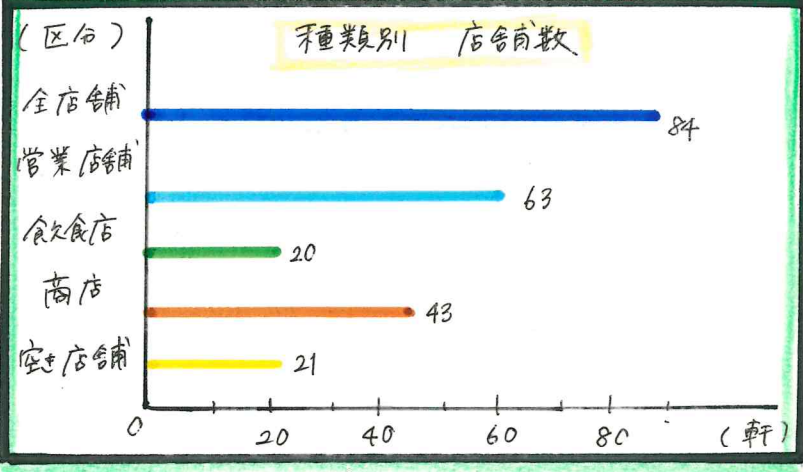
「花園通り商店街」
人口: 51万 5178人



飲食店 種類別グラフ

四国中央市

「栄町商店街」
人口: 8万 9070人



飲食店 種類別グラフ

上記のグラフから気づくこと

- 花園通り商店街に比べ圧倒的に栄町商店街の空き店舗の多さが目立つ。数値の差も19と大きい。しかし全店舗数で見ると差は4である。
↳ 栄町商店街の方が新しいとE(おじめ)やすい環境にあるといえる。
- 開店し営業している店舗の内、飲食店と商店の数値が正反対であると言える。花園通り商店街は全体から見ると63%の飲食店、37%の商店であるのに対し、栄町商店街は全体から見ると32%が飲食店、68%が商店であった。
↳ 現代は商店より飲食店の方が需要があるかもしれない。買い物に重点を置くのではなく、飲食に重点を置いた方が集客しやすいのではないだろうか。

言直して気づいたこと

- 花園通り商店街には原主車場はあるが、入りきらず、歩道に無数に放置されている。栄町商店街には駐車場はあるが、馬車車場はなく、店先に停めている。
↳ 栄町商店街の方が道幅が広く、自転車を停めてもおかしく歩いて買い物ができる。

※人口は松山市ホームページ、四国中央市ホームページより

3. 商店街に活気を出す提案

インタビューから「町づくり」に対する商店街側の献身的な様子がうかがえた。また、調査から栄町商店街に必要な要素を絞り出あこともできた。そこから私が提案したいのは、

「**栄町商店街への飲食店の集中**」である。花園通り商店街内には様々な世代が楽しめる飲食店が揃っていた。そこでまず「飲食店と集中させるための布石として朝市のような路店から始めるのが良いだろう。やはりとしては一度に理解してもらって飲食店側を商店街に集めるのは難しいため、その路店で人の集客量や様子を見て納得して商店街でお店を開いてもらうのだ。」その案が下記のものである。

提案①：「ぐるめ市」

概要 ... 現在ある朝市や食の回廊をさらにパワーアップさせたもの。今までは有名店が来るのではなく、産地直送型の市であった。もちろんその地元の良さも残しつつ、若者にも親しみやすい、若鳥の揚げ鳥や市内ラーメン店のラーメン、カレーや新宮霧の森のスーリを店売する。さらに市の回数も従来の市より多く、認知度を高める。

この市で様々な店舗の理解が得られたならば、次に提案したいのは町を生かしたキャンペーンである。

提案②：「紙国 美味しいもん巡り」

概要 ... かけ言葉を生かし、地元の人に親しみやすいタイトルをつけた。「四国の「お遍路巡り」」からヒントを得た上で、118ヶ所を巡るのは難しいため、18軒の飲食店と協力してスタンプラリーを行う。18個集めたら飲食店の割り引き券と引き換えができるため、また食へに来てもらえるというサイクルを回している。タイトルの「紙」は紙の街の紙を「し」と読み、四国の「し」とかけている。

さらに、ただ飲食店だけでなく、「**本馬食型飲食店**」を導入することで、食中毒防止や話題性、満足度の増加を見込めると考える。この案は以前、私が岡山県的美観地区を訪れた際に、名物の「えらあづめ」の手焼き本馬食をしたことがあり、その時に「美味しい」という思いだけでなく、「楽しかった」という印象も同時に残った出来事から来ている。この本馬食から、この案で地域の人にもっと楽しんでもらえるのではないかと考える。



4. 結果・まとめ

今回、近くにあるにもかかわらず、なかなか知るここの街から商店街にスポットを当てるといふ魅力を感じることのできる調査となった。まだまだ商店街自体に「町づくり」の可能性を感じた。しかし調査の中で問題点や今後の課題となるだろうと予想できるのが「**空き店舗問題**」である。また、飲食店で賑わうようになるには、それに合わせて周囲の商店も昔のままではなく、古きよさを残しつつ明るさと入りやすさを求めた改装が必要が出てくるだろう。店主側との理解で解決していくものが多い。こちらを1つ1つ解決していくことでより良いビジョンに合った持続可能な町づくりとなるだろう。